

『愛媛県がん情報データベース計画』～地域のがん情報を有効利用する新たな枠組み

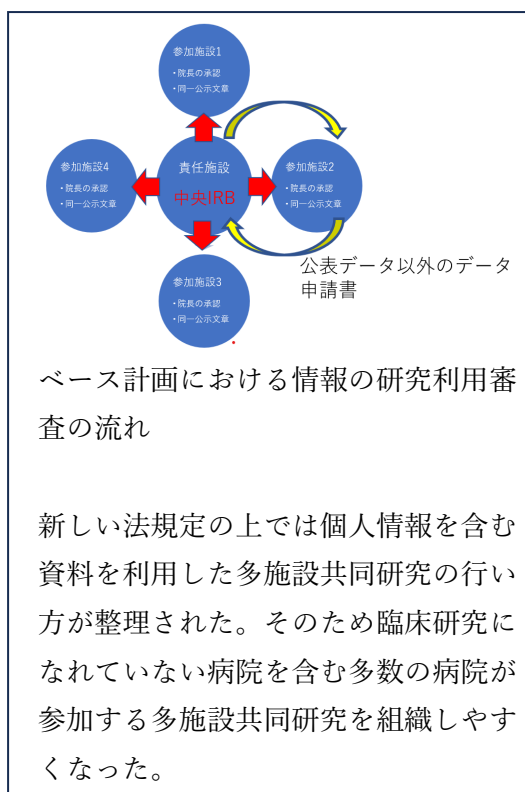
寺本典弘、山下夏美、白岡佳樹、大平由津子、新居田あおい

四国がんセンター、愛媛県がん登録専門部会

愛媛県がん情報データベース計画の目的

愛媛県がん診療連携協議会（協議会）・がん登録専門部会は『がん登録で見る愛媛県のがん診療』などのがん情報の集計事業を行ってきたが、愛媛県が委託し協議会が行う“事業”という枠組みで行ってきたため、“事業集計”の枠を超える解析を求める医療者等の要望に答えることが出来なかった。収集したがん情報をさらに積極的、有効に利活用するため、新しい『個人情報保護法』や『人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針』に適応した研究の枠組みで、『がん登録で見る愛媛県のがん診療』や東班 QI 研究に提出したデータを収集した愛媛県がん情報データベース（ECIDB）を作成することが 2022 年 8 月の協議会役員会で決定された。

図 1. 愛媛県がん情報データ



愛媛県がん情報データベース計画の仕組み

協議会所属の全病院から施設責任者を立てる多施設共同研究として、ECIDB の確立と利活用の実現性を評価項目とする研究計画 / 『愛媛県がん情報データベース計画』を作成し、中央倫理審査委員会（四国がんセンター倫理審査委員会）から承認を受けた。県内の院内がん登録データ、および東班 QI 研究データは各施設長から承諾書を取り、愛媛県 DB 計画に収載した。県内の多施設から多職種（病理医、臨床医、統計家医師、薬剤師、薬師、医事担当事務員、診療情報管理士）で構成する ECIDB 委員会が DB の管理、運営を担当する。

研究利用に関しては、まず ECIDB の利用を望む申請者が、ECIDB 委員会に研究計画書と共に利用を申請する。ECIDB 委員会は提出された研究の妥当性を審査する。次に

申請者が ECIDB 計画の付随研究として改めて、四国がんセンター倫理審査委員会に研究の承認申請を行う。この形は東班 QI 研究や北信がんプロをモデルとした。

ECIDB の収集する情報は、これまで『がん登録でみる愛媛県のがん診療』において収集していた各施設の個人識別性の高い部分を削除した院内がん登録データ（0 年および予後付き 5 年データ）と東班 QI データである。いずれも各施設長の同意の下 ECIDB に移管される。2024 年の収集からは、愛媛県がん診療推進病院の予後付きデータおよび東班 QI データも追加される予定である。

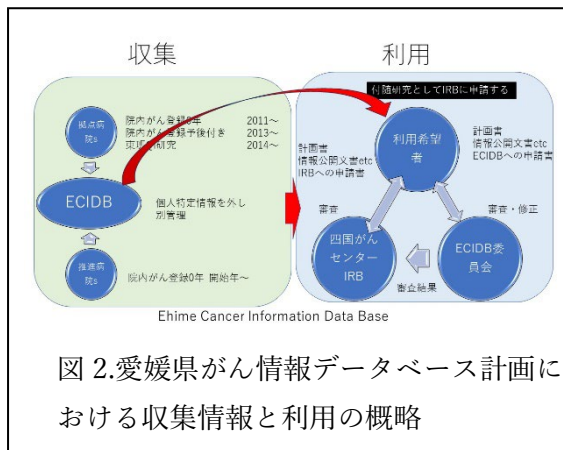


図 2.愛媛県がん情報データベース計画における収集情報と利用の概略

愛媛県 DB 計画の現状

協議会としては、さまざまな PDCA 活動の指標を算出することが目的の一つではあるが、愛媛県はがん診療の県内完結性と拠点病院の占有率が高いので、日本のがん診療を評価する上でも有用な DB となることを期待している。ホームページも公開し、利用に関する提案受け付けている。

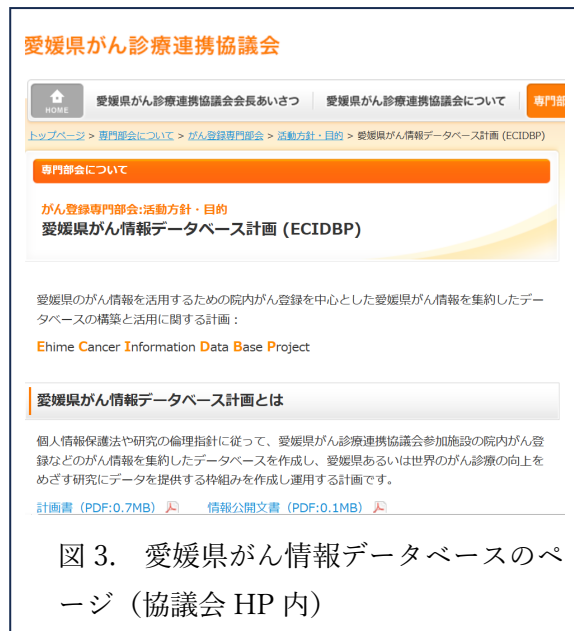


図 3. 愛媛県がん情報データベースのページ (協議会 HP 内)

現在、ECIDB 計画の第一事例として、拠点病院におけるがんのセカンドオピニオンの実施状況を明らかにする研究のデータ利用申請が ECIDB 委員会・中央倫理審査委員会で承認された。現在解析中である。